

環境教育プログラムの開発に関する実践的研究	
題目	地域活動における環境学習の実践
著者	神宮文代 小野田弘士

## 1. 概要

児童向けの実践的な環境学習プログラムを開発・実践することを目的に、環境学習プログラム等のDBの構築、地域および企業ニーズに対応した環境学習プログラムの開発・実践・評価、環境学習による教育効果を把握するための評価手法の高度化等を実施している。2023年度は、「文京区青少年委員会」において、環境学習を実践した。

## 2. 環境学習プログラムの開発・実践

### 〈事前準備〉

「遊ぼう☆飛ばそう！SDGs」というテーマで、2023年12月17日（日）10:00～12:00、文京区立指ヶ谷小学校体育館において、環境学習を行った。対象は、文京区内に在住・在学の小学4年生～中学3年生で、定員は30名である。

文京区青少年委員会主催

遊ぼう☆飛ばそう！SDGs

- 日時：2023年12月17日（日）  
開始10時00分～解散12時00分
- 場所：文京区立指ヶ谷小学校 体育館
- 対象：文京区内に在住、在学の  
小学4年生～中学3年生
- 定員：30名
- 内容：①クリーンエネルギーを学ぶ  
「風船ヘリコプター作り」  
②正解不正解で人がコマとなって動く  
SDGsクイズ「体験すごろく」
- 持ち物：筆記用具、上履き、動きやすい服装  
水分補給用に水筒を持たせてください。

ミッションをクリアしたら  
SDGsバッジをGET!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

文京区青少年委員会 web サイトより引用

これまで、当研究グループで行ってきた環境学習は、学生が企画・立案・実践を行う形式で実践してきた。今回は、主催者である文京区青少年委員会が企画したプログラムに対して、助言・情報提供等を行う形で準備を進めた。

当日、筆者らが現地参加したが、環境学習に必要な準備等は主催者がすべて行った。プログラムのうち、筆者らが助言・情報提供を行ったのは、①クリーンエネルギーを学ぶ「風船ヘリコプター作り」である。このプログラムは、本庄ユニラブ2019で実践した「空気の力で風船ヘリコプターを飛ばそう！（小野田研究室）」がベースとなっている。当時の対象が小学1～2年生であったため、グルーガンを使用する部分等の難しい箇所は、事前に運営側（研究室）がすべて事前に作成していた。今回は、対象が小学4年生以上のため、子どもたち自らグルーガンを用い、マニュアルにそって風船ヘリコプターを作り上げることができると予想し、プログラムが設計された。

また、本庄ユニラブ2019で用いた羽根は4枚であった。しかし、今回は子どもが最初から作ってしっかり飛ばすことを目指し、軽量化を図るため、羽根は4枚ではなく3枚で作ることとした。

主催者である文京区青少年委員の方々には、幾度となく試行錯誤を行い、当初は飛ばなかった風船ヘリコプターが飛ばようになった。改善と工夫を重ね、その材料と流れて作った過程がわかりやすくマニュアル化されていた。子どもたちをサポートする側の大人がすべての工程を理解していることにより、円滑にプログラムが運営された。

主催者である文京区青少年委員の方々には、幾度となく試行錯誤を行い、当初は飛ばなかった風船ヘリコプターが飛ばようになった。改善と工夫を重ね、その材料と流れて作った過程がわかりやすくマニュアル化されていた。子どもたちをサポートする側の大人がすべての工程を理解していることにより、円滑にプログラムが運営された。

### 〈環境学習を終えて〉

風船ヘリコプターを飛ばして、遊びの中からSDGsをお勉強！

SDGs（持続可能な開発目標）を身近に感じ、理解を深めてもらうのを目的に開催。前半は「エネルギーをみんなに。そしてクリーンに」という目標達成のためにクリーンエネルギーを学ぶ「風船ヘリコプター作り」を行いました。風船やストロー、マヨカップなど、身近にある材料を利用して製作し、その前後には、監修をいただいた早稲田大学の小野田弘士教授にクリーンエネルギーの事例などをお話いただきました。後半はSDGsをテーマにしたすごろく大会をグループ対抗で行い、最後にSDGsを理解したということで、SDGsバッジを認定証として参加者29人に進呈して終了しました。

文京区青少年委員会広報誌第20号「すなおにあかるく」より引用

## 謝辞

本企画を進めるにあたりご協力いただいた倉田会長、奥住リーダーをはじめ、文京区青少年委員の皆様、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

